

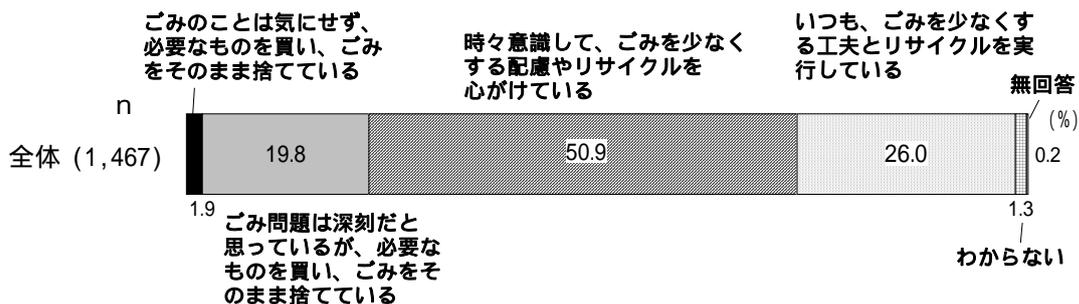
8 リサイクル等の推進について

(1) ごみやリサイクル問題のとらえ方

『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』が7割台半ば

問32 県では「千葉県資源循環型社会づくり計画」を策定し、ごみの減量、リサイクルの促進等により、環境への負荷を低減する社会づくりに取り組んでいます。あなたは、日頃の暮らしの中で、ごみやリサイクルの問題をどのようにとらえていますか。次の中から一番近いものを選んでください。(は1つ)

<図表8-1> ごみやリサイクル問題のとらえ方



ごみやリサイクル問題のとらえ方を聞いたところ、「ごみのことは気にせず、必要なものを買ひ、ごみをそのまま捨てている」(1.9%)と「ごみ問題は深刻だと思っているが、必要なものを買ひ、ごみをそのまま捨てている」(19.8%)を合わせた『ごみをそのまま捨てている』(21.7%)は2割を超える。一方、「時々意識して、ごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている」(50.9%)が5割と最も多く、「いつも、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している」(26.0%)と合わせた『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』(76.9%)は、7割台半ばで多数を占める。(図表8-1)

【参考】平成14年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	『必要なものを買ひ、 ごみをそのまま捨て ている』	『ごみを少なくする配 慮や工夫をし、リサ イクルをしている』
平成14年度調査	2,102	20.0	78.0
今回調査	1,467	21.7	76.9

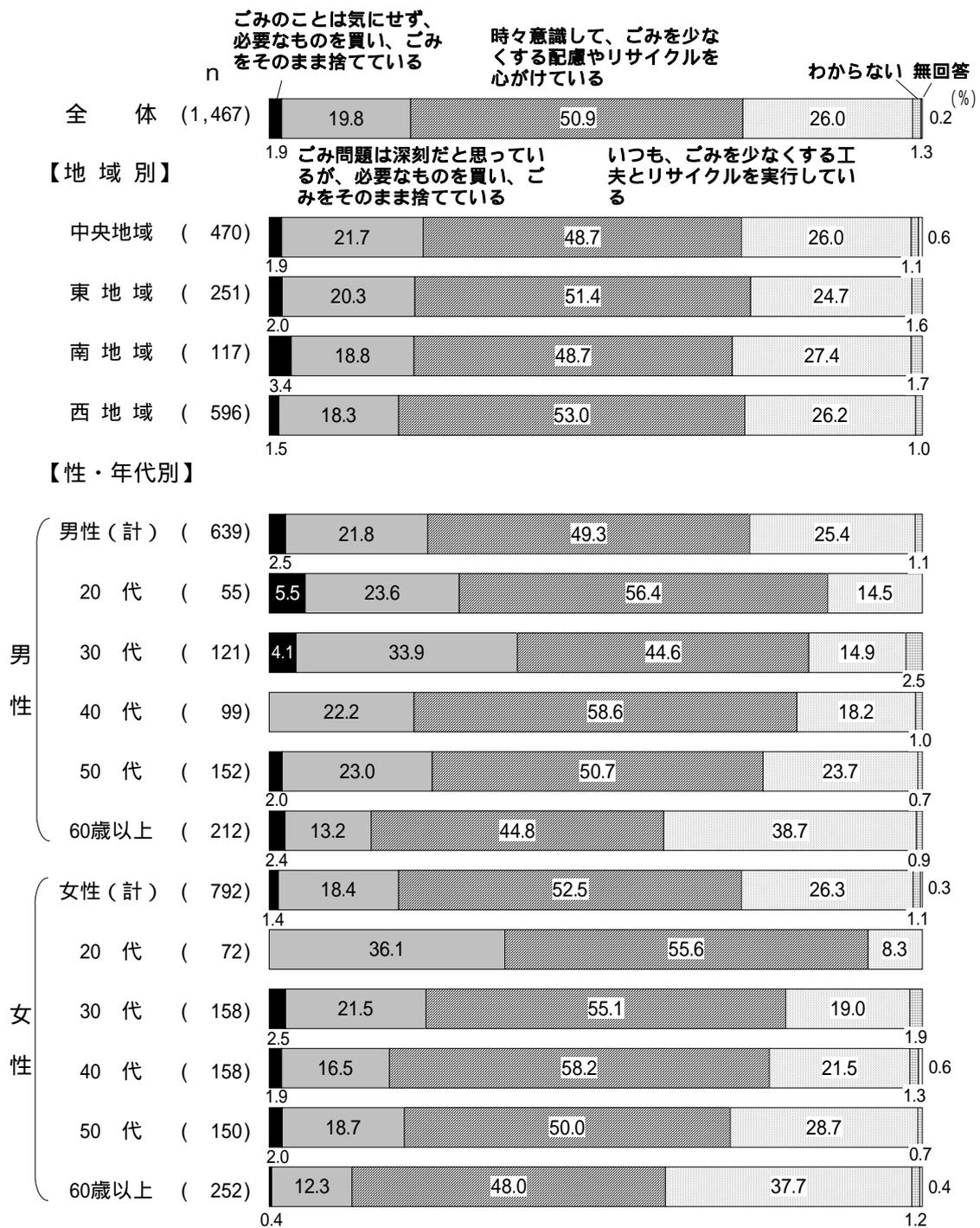
【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。(図表8-2)

【性・年代別】

『ごみをそのまま捨てている』が、男性の30代(38.0%)と女性の20代(36.1%)で3割を超え高くなっている。そのため、『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』は、男性の30代(59.5%)と女性の20代(63.9%)は6割前後にとどまる。なお、『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』は、男女ともに60歳以上で8割台半ばと高くなっている。(図表8-2)

<図表8 - 2> ごみやリサイクル問題のとらえ方 / 地域別、性・年代別

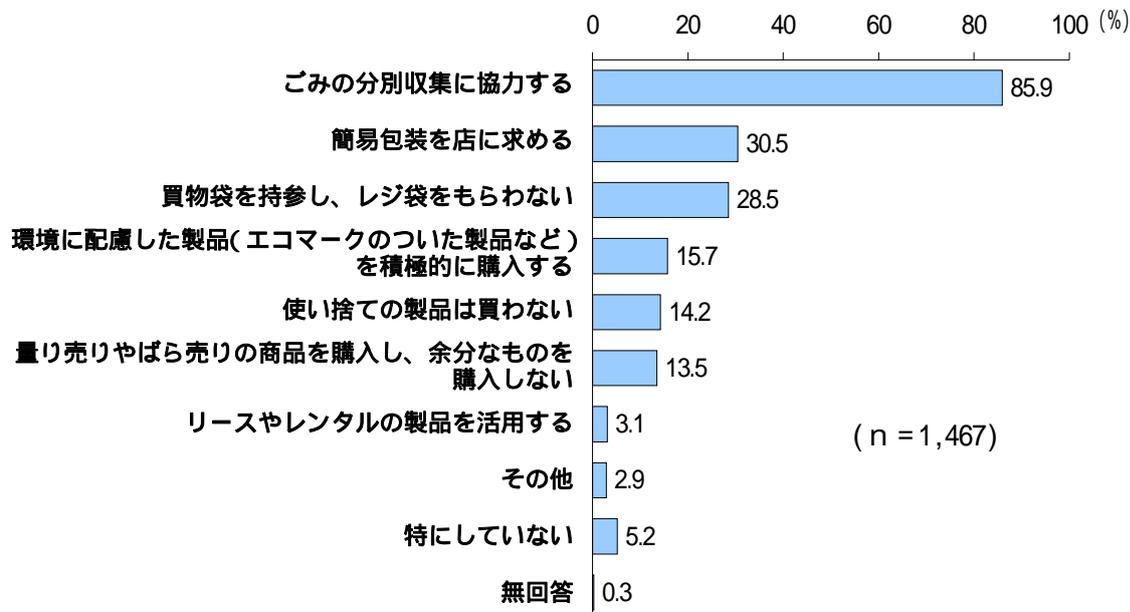


(2) ごみを減らしたりリサイクルのために取り組んでいること

「ごみの分別収集に協力する」が8割台半ばで突出

問33 あなたは、日頃の暮らしの中で、ごみを減らしたりリサイクルするために、何か取り組みを行っていますか。次の中からあなたが心がけていることを選んでください。
(はいいくつでも)

<図表8-3> ごみを減らしたりリサイクルのために取り組んでいること(複数回答)



ごみを減らしたりリサイクルするために取り組んでいることをいくつか選んでもらったところ、「ごみの分別収集に協力する」(85.9%)が8割台半ばで最も高い。次いで、「簡易包装を店に求める」(30.5%)と「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」(28.5%)が3割前後となっている。(図表8-3)

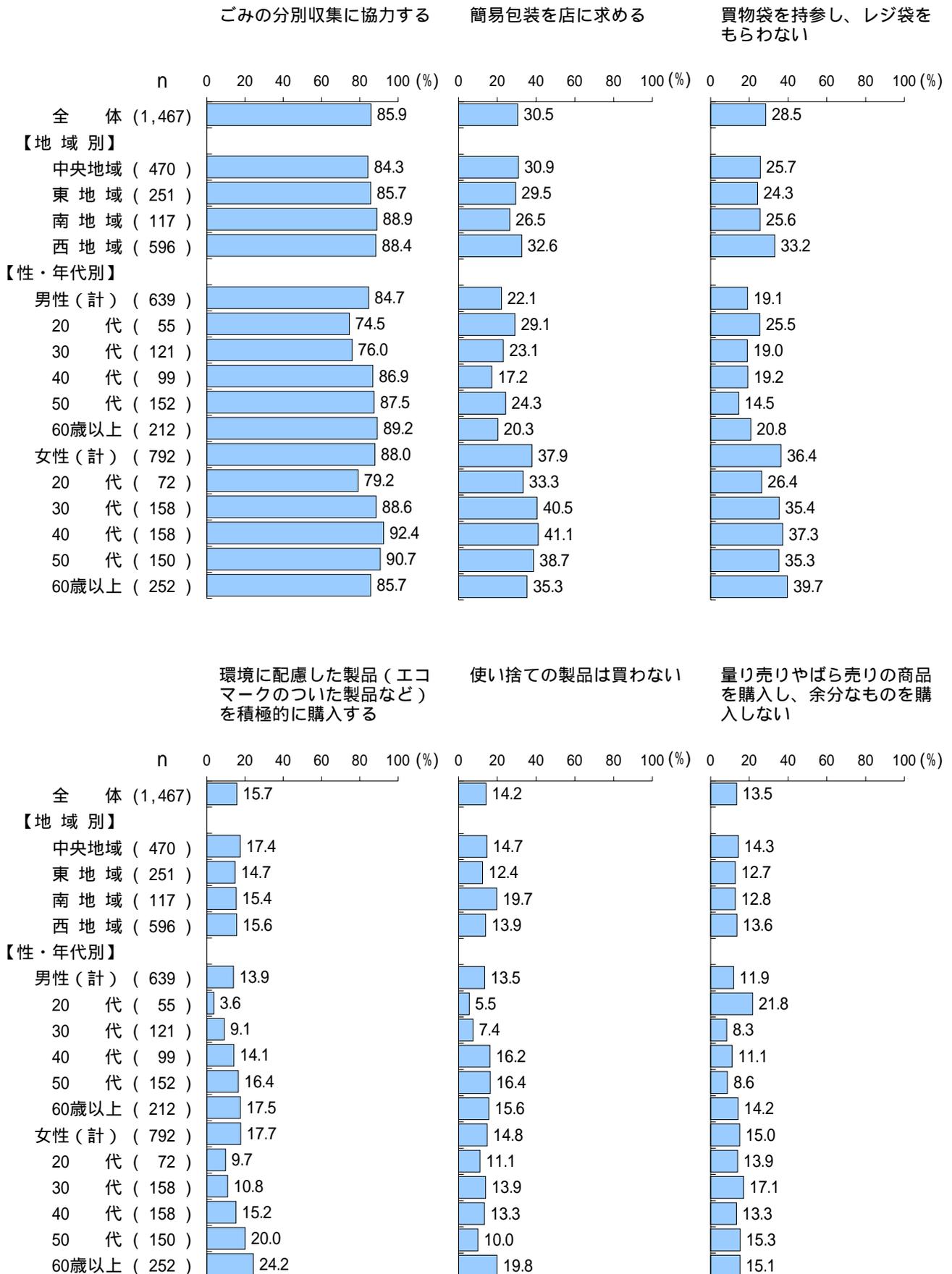
【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「簡易包装を店に求める」と「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」は、「西地域」で3割を超え最も高い。(図表8-4)

【性・年代別】

「ごみの分別収集に協力する」は男性の40歳以上、女性の30歳以上が8割を大幅に超え、男性の20代(74.5%)と30代(76.0%)、女性20代(79.2%)では8割を下回っている。「買い物袋を持参し、レジ袋をもらわない」は、女性の各年代に比べて男性は全体的に低い。「環境に配慮した製品(エコマークのついた製品など)を積極的に購入する」は、男女とも年代が上がるほど増加している。(図表8-4)

<図表8 - 4> ごみを減らしたりリサイクルのために取り組んでいること / 地域別、性・年代別
(上位6項目)

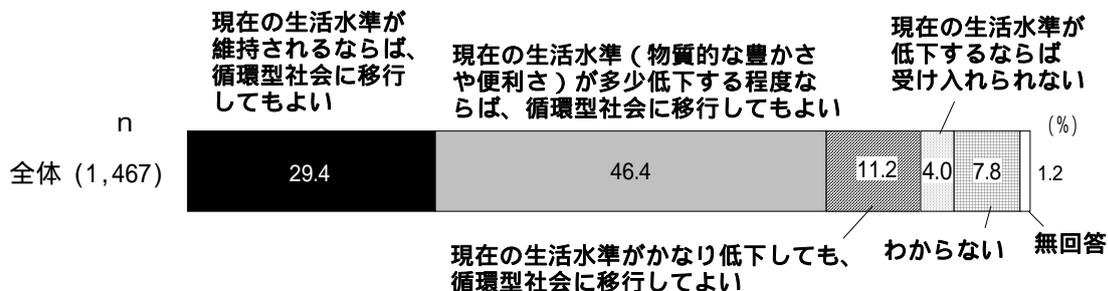


(3) 生活水準と循環型社会

「現在の生活水準が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」が4割台半ば

問34 ごみ問題を解決するためには、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から、ごみを減らしリサイクルを進めることで環境への負荷を減らす「循環型社会」に変えていく必要があります。あなたはこれについてどのように思いますか。(は1つ)

<図表8-5> 生活水準と循環型社会



生活水準と循環型社会について聞いたところ、「現在の生活水準が維持されるならば、循環型社会に移行してもよい」(29.4%)が約3割となっている。また、「現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」(46.4%)が4割台半ばで、「現在の生活水準がかなり低下しても、循環型社会に移行してよい」(11.2%)が1割を超える。(図表8-5)

〔参考〕平成14年度の同様の項目による調査結果との比較

(単位：%)

	n 全体	「現在の生活水準が維持されるならば、循環型社会に移行してもよい」	「現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」	「現在の生活水準がかなり低下しても、循環型社会に移行してよい」	「現在の生活水準が低下するならば、受け入れられない」
平成14年度調査	2,102	46.2	36.2	7.6	3.4
今回調査	1,467	29.4	46.4	11.2	4.0

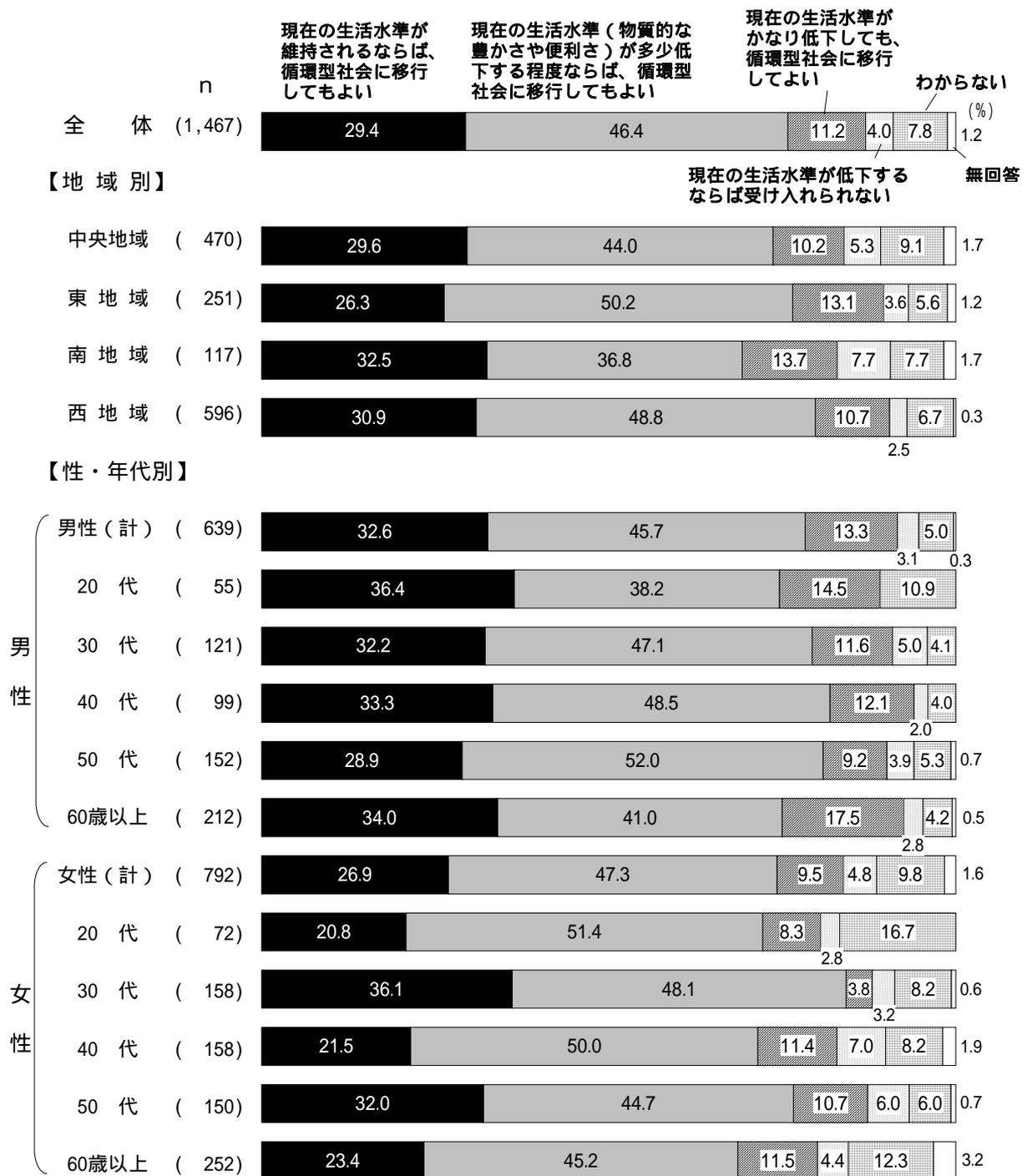
【地域別】

「現在の生活水準が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」は、「東地域」(50.2%)と「西地域」(48.8%)が他の2地域に比べて高くなっている。(図表8-6)

【性・年代別】

「現在の生活水準が維持されるならば、循環型社会に移行してもよい」は、男性の方が女性よりも高くなる傾向にあるが、30代、50代では逆転している。「現在の生活水準が多少低下する程度ならば、循環型社会に移行してもよい」は、男性の50代(52.0%)と女性の20代(51.4%)、40代(50.0%)が5割以上となっている。(図表8-6)

<図表8 - 6> 生活水準と循環型社会 / 地域別、性・年代別

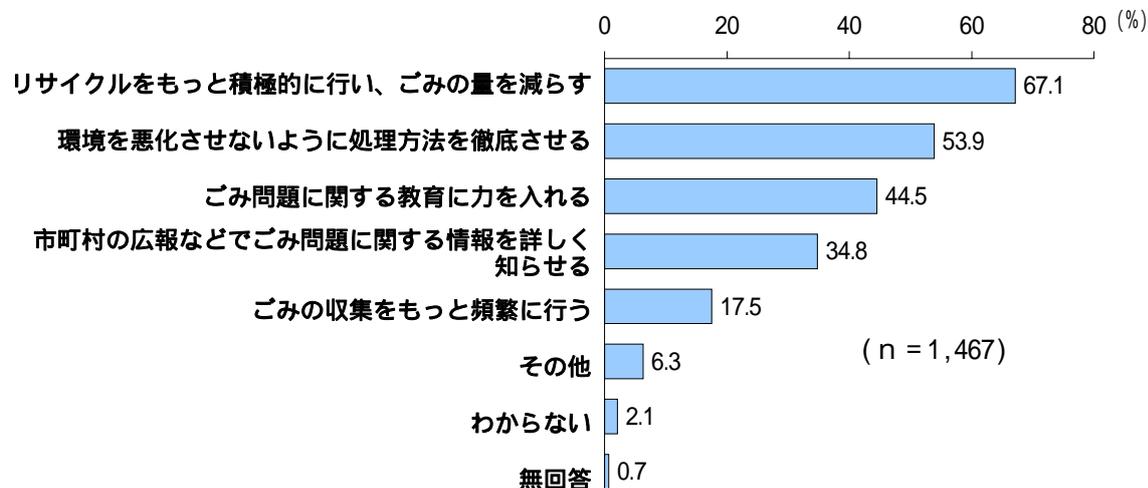


(4) 今後のごみ問題に関して望むこと

「リサイクルをもっと積極的に行い、ごみの量を減らす」が約7割

問35 今後のごみ問題に関して、どのようなことを望みますか。(はいくつでも)

<図表8-7> 今後のごみ問題に関して望むこと(複数回答)



今後のごみ問題に関して望むことをいくつか選んでもらったところ、「リサイクルをもっと積極的に行い、ごみの量を減らす」(67.1%)が約7割で最も高く、次いで、「環境を悪化させないように処理方法を徹底させる」(53.9%)が5割台半ばとなっている。このほか、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」(44.5%)が4割台半ばで、「市町村の広報などでごみ問題に関する情報を詳しく知らせる」(34.8%)が3割台半ばとなっている。(図表8-7)

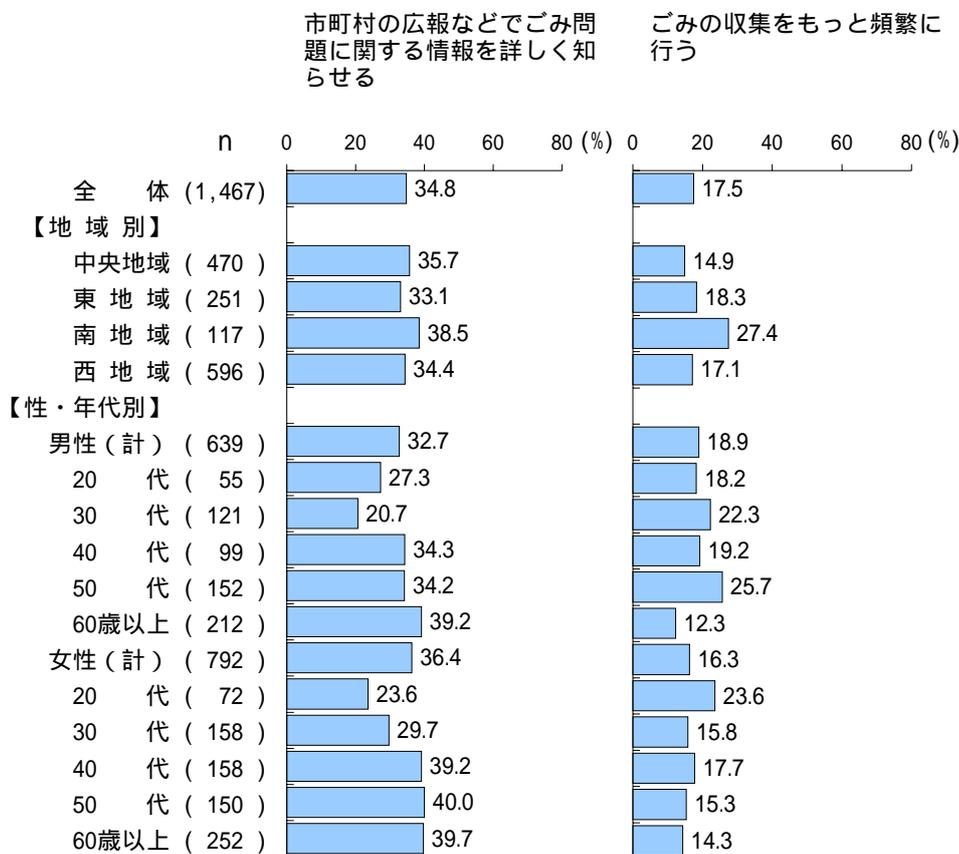
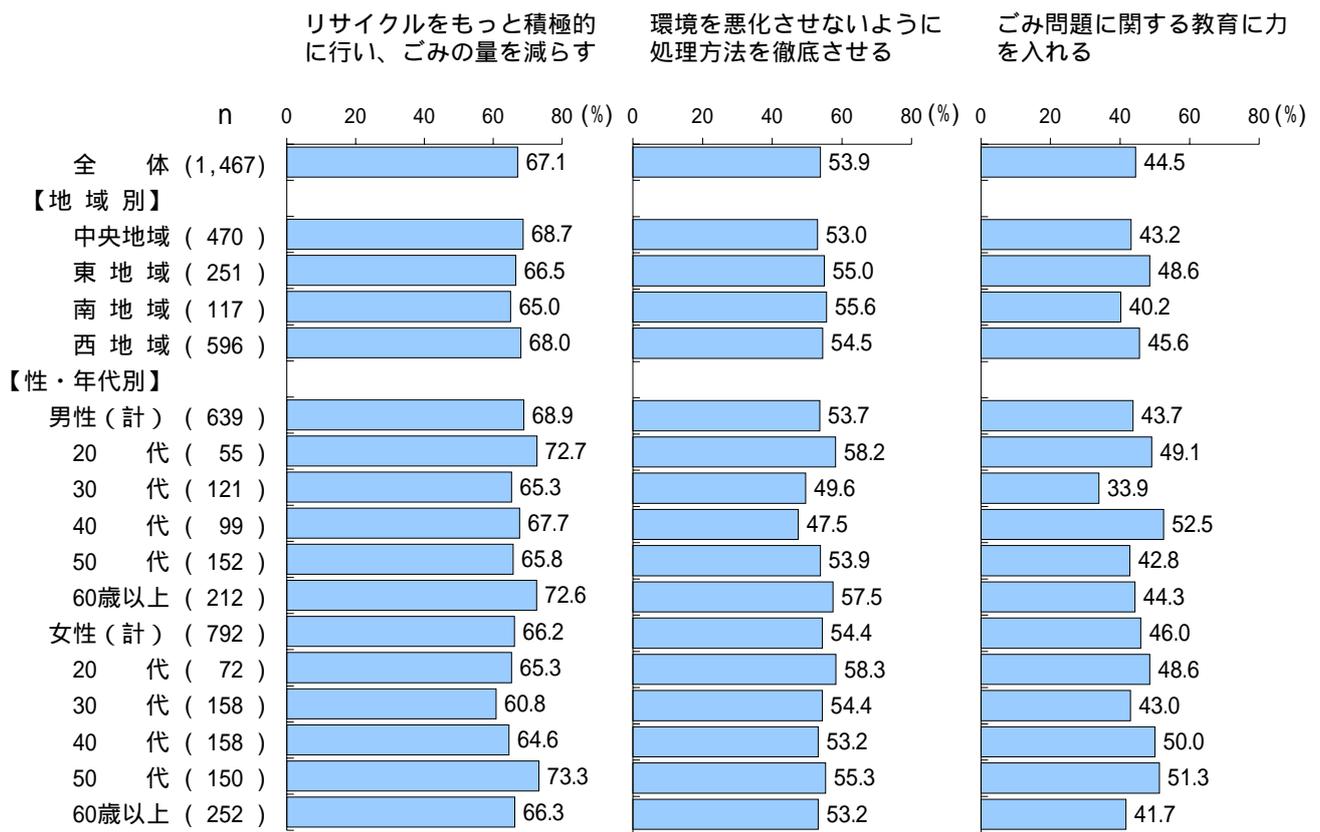
【地域別】

上位2項目での地域による大きな違いはみられないが、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」は“東地域”(48.6%)で約5割と他地域より高くなっている。「市町村の広報などでごみ問題に関する情報を詳しく知らせる」と「ごみの収集をもっと頻繁に行う」は、“南地域”が他の地域に比べて高くなっている。(図表8-8)

【性・年代別】

「リサイクルをもっと積極的に行い、ごみの量を減らす」は各年代とも6割を超えており、特に、男性の20代(72.7%)と60歳以上(72.6%)、女性の50代(73.3%)で7割を超え高くなっている。「環境を悪化させないように処理方法を徹底させる」は、男女ともに20代で高くなっており約6割である。また、「ごみ問題に関する教育に力を入れる」は、男性の30代(33.9%)が3割台半ばにとどまり低いが、特に、男性の40代(52.5%)と女性の40~50代は5割以上で高くなっている。(図表8-8)

<図表8 - 8> 今後のごみ問題に関して望むこと / 地域別、性・年代別

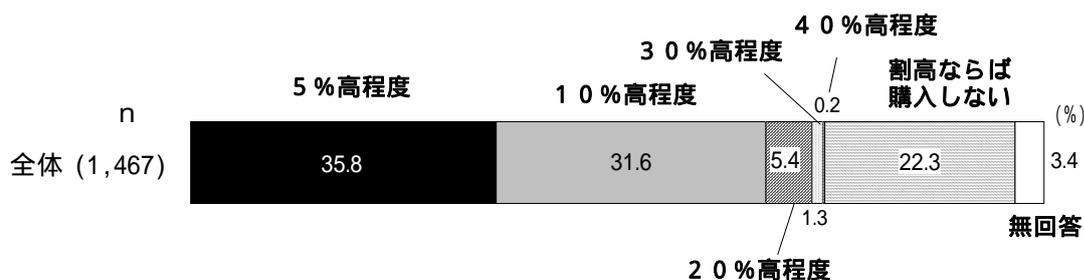


(5) 環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲

「 5 % 高程度 」か「 10 % 高程度 」が 3 割台で並ぶが、一方「 割高ならば購入しない 」が 2 割を超える

問36 環境に配慮した製品が一般の製品と比べて割高な場合、あなたは、一般の製品より何%高程度までであれば購入しますか。次の中からあなたの考えに一番近いものを選んでください。(は 1 つ)

< 図表 8 - 9 > 環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲



環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲を聞いたところ、「 5 % 高程度 」(35.8 %) が 3 割台半ばで最も多く、次いで「 10 % 高程度 」(31.6 %) が 3 割を超えている。一方で「 割高ならば購入しない 」(22.3 %) が 2 割を超えている。(図表 8 - 9)

【地域別】

いずれの地域でも「 5 % 高程度 」は多くを占めており、特に、「 東地域 」(38.6 %)と「 南地域 」(38.5 %) は約 4 割となっている。「 10 % 高程度 」は、「 中央地域 」(33.4 %)、「 西地域 」(32.6 %)、「 東地域 」(31.5 %) が 3 割を超えている。「 割高ならば購入しない 」は、「 南地域 」(30.8 %) が最も高く 3 割となっている。(図表 8 - 10)

【性・年代別】

男性では、40 代と 60 歳以上は「 5 % 高程度 」の方が「 10 % 高程度 」よりも多く 4 割を超えているが、他の年代では「 10 % 高程度 」の方が多い。また、「 割高ならば購入しない 」は、20 代 (29.1 %) が約 3 割となっており、おおむね年代が上がるほど減少している。

一方、女性では、いずれの年代でも「 5 % 高程度 」の方が「 10 % 高程度 」よりも多く、中でも、30 代は 4 割を超える。また、「 割高ならば購入しない 」は 20 代 (30.6 %) が 3 割で、男性と同様に、おおむね年代が上がるほど減少する傾向がみられる。(図表 8 - 10)

<図表8 - 10> 環境に配慮した製品が割高な場合に許容できる範囲 / 地域別、性・年代別

